

「コンテンツmonsterだな」・・・彼女を他人に紹介するときなんと表せばよいだろう？と考えた時、ふとこんな言葉が口をついて出た。何の気なしに率直に言葉がまずついて出たのだが、後になってよく考えて見ても、この「コンテンツmonster」という呼称は、あながちオーバーでもなく、彼女の本質の1つを捉えた言葉なのではないかと思っている。

はたゆかという女性は、実に多彩にして多才だ。「これ」と決めたことは大概何でも上等に自身の美学を持って表現できる。もっといえば「生きること」そして自分がそこに関わることは全て、口の中に放り込み、咀嚼し、自身の表現に変えて吐き出してしまふ。まさしくコンテンツmonsterそのものだ。

そういう人間を一言でまとめるのは、なかなか苦労する。おそらく、「才能の塊」だとか「器用な人」だとか、「天才」だとか、「なんでもできる人」だとかいった形容の仕方はおそらくこれまでの半生で何度となく繰り返されてきただろう。それではあまりにも凡庸でつまらない。彼女自身がそう言われることにきつと飽き飽きしていることだろう。

では、その「才能」とは？「器用さ」とは？「天才性」とは？「なんでもできる」ということの根源にある要素を見つめた時、1つの共有項に気づいた。彼女は、自らのイメージを形にするという点において突出しているのである。すなわち、その本質とは無形のイメージングプロセスにある。すなわち、それは枠のない世界に彼女のフィルターを通過させた上で形を与えるという点において、コンテンツ(=CONTENTS)ということが広義で言える。したがって、コンテンツmonsterというポップでキャッチーで、ナウでヤングな呼称は、まさにその傑物ぶりを表す言葉としてこれ以上にはまる。

流動するイメージに枠を与えるというのは並大抵のことではない。

とめどなく溢れ、流れ続け、変質を続けるものにある種の決定打を打ち、その刹那をパッケージングする必要があるからだ。

それができる人間は、そう多くはない。しかし、はたゆかはそのプロセスでさえも明確に構造を解体し、説明可能な形へ変換できる。

そこがはたゆかが恐るべきコンテンツmonsterである所以なのである。

彼女にかかれば、そのプロセスすらもまた一つ、表現の範疇だ。

だからこそ、本講座において彼女にそのプロセスを教わり、自身の無形資産に色や形を与えるということができるみなさんは本当に素晴らしい智慧を得られるはずだ。

少なくとも断言するが、彼女のその能力は業界のトップ0.1%以上のレベルにある逸材だ。過去15年間近くに渡りネットで活動するコンテンツスターたちを見てきたが、彼女に並ぶ女性起業家はいない。相当辛口な選球眼でみたとき、彼女はやはり「コンテンツmonster」と称するに値する次元にある。ぜひその真髄を、コンテンツmonsterが調理した形で受け取り、あなたもその奥義を体得されてみてください。

心から彼女のコンテンツmonsterぶりに尊敬の念を表すると共に、本講座を強く推薦させていただきます。

エルネスト株式会社
代表取締役 原田翔太